

起業は、苦しくても目標の頂を目指す「登山」に似ているという。「だとしたら僕はベースキャンプのような存在。彼らを受け入れ、背中を押してあげたい」

投資会社ちゅうぎんキャピタルパートナーズ(CCP、岡山市北区丸の内)の取締役石元玲さん(54)は自らの役割をこう例える。

中国銀行(同)と同じく、ちゅうぎんフィナンシャルグループの傘下にあるCCP。地域課題の解決や新産業の創出に向け、数多くのスタートアップ(新興企業)の中から、事業の社会的意義や市場性を精査し、ファンドを活用して出資する。実績が少なく資金調達が難しい挑戦者たちの経営を積極支援している。

石元さんは大都市圏での実績を含め約30年のキャリアを持つ。経験豊富なサポーターとして、岡山のスタートアップシーンに欠かせないキーパーソンでもある。

サポーター

ファンド創設、起業支援

⑤

民主導の試み

起業家や投資家と関わりを持ったのは福岡市。2009年、勤務していた東京の投資会社が同市に設立した子会社

に「生息地」が重なり、事業承継のファン

ド運営に携わった。永続的な経営を目指して事業を承継した新たな価値を生み出すアツギベンチャー(若手後継者)と、ゼロから事業を立ち上げるスタートアップ。たこともあり、次第に彼らとの接点が増加。12年に「スタートアップ都市宣言」を打ち出し、全国でもいち早く育成・支援に乗り出した福岡市の取り組みに呼応するように、起業家が投資家らに事業構想をプレゼンテーションする「ピッチコンテ

ト」が中心のイベントを地元有志と始めた。民主導の斬新な試みで、今では重要な支援基盤の一つとなっている。15年に帰郷し、中国銀行に転職した。経営者の高齢化や後継者難が課題となる中、事業承継支援に携わる傍ら、スタートアップに資金を供給するファンドを創設。事業会社への出資上限を緩和する銀行法の改正(21年)をにらんだCCP設立の準備にも関わり、22年の設立と同時に取締役に就いた。

投資先は50社

CCPのファンドは現在、総額35億円に上り、投資先は延べ約50社を数える。

一例を挙げると、音源の販売サイトを運営するオーディオストック(岡山市)やアプリ向けITのパターンズストレージ(同市)、採用活動支援サービスを手がける岡山大

発ABA(アババ、東京)などがそうだ。

スタートアップの約7割が集中する東京に比べ、地方は、企業や技術、資金などが集積、連携し技術革新を起こす「エコシステム(生態系)」の仕組みが不十分との指摘がある。

石元さんは福岡での経験を

生かし、起業家と、投資家や自治体関係者らサポーターのネットワークづくりの支援組織を有志とともに、18年に立ち上げた。その「スタートアップキングダム」は岡山市の創業・起業支援拠点「もたらう」スタートアップカフェ」開設の原動力となり、岡山での環境づくりに大きく貢献している。

石元さんは言う。「地方でもチャレンジできるってことを伝えたい。その土台を作るのが、僕のミッション」

(大河原三恵)

岡山スタートアップ最前線



「ベースキャンプのように起業家を受け入れ、背中を押してあげたい」と話す石元さん(中西弘之撮影)